



*Integration Summit*

# **8 Differences**

# 1. チーム内に多くのアナリストを擁し、

# 株式市場を熟知している—専門力

株価は、2013年5月の高値592円と2016年1月の安値405円のボクスクス圏に上下動を繰り返しながら下落傾向にある。

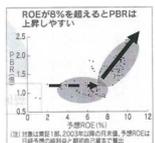
## IR DOCTOR

ホールディングス株式会社 「株価診断レポート」

投資家の期待は、株価値上がり益 (ROE) + 配当 (株主還元方針)

- ROE: 7%目標
  - 積極的な自社株買いもあり上昇傾向にある。
  - 資本コスト (WACC) 5.21%を超えている。
  - ROEが8%を超えてくると株価との相関関係がある。

	AxBxC	A	B	C	自己資本比率
2010/3	10.4%	8.2%	0.86	1.48	69.1%
2011/3	4.7%	3.9%	0.83	1.45	68.9%
2013/3	7.6%	6.4%	0.82	1.45	69.2%
2014/3	7.0%	5.5%	0.90	1.43	70.6%
2015/3	8.4%	6.6%	0.92	1.39	73.1%
市場15/3	8.1%	3.6%	0.86	2.59	39.2%



ROEが8%を超えるとPBRは上昇しやすい

- 配当: ①業績に裏付けされた成果配分 ②安定配当
  - 配当性向の目標値はないが、自社株買いまで含めた還元率は極めて高い。

決算期	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
1株当たりの配当金(円)	50.00	40.00	55.00	60.00	45.00
配当金総額(百万円)	1,261	966	1,270	1,254	1,816
自己株式買入総額(百万円)	499	1,499	1,499	4,999	2,538
配当性向(%)	20.2	34.1	26.7	28.6	32.8
還元性向(%)	28.0	85.4	57.4	136.6	77.4

理想科学工業 ホームページより

株価診断レポート

ブリッジレポート (2016年12月) 2016年11月7日

## ブリッジレポート

Bridge Report オプテックス (6914)

会社名: オプテックス 株式会社  
 証券コード: 6914  
 市場: 東証1部  
 業種: 電気情報設備業  
 会長兼社長: 小林 賢  
 所在地: 滋賀県大津市猿蓑 5-8-12  
 事業内容: センシング技術を利用した製品及びシステムの開発・販売  
 決算期: 12月  
 HP: <http://www.optex.co.jp/>



項目	発行済株式数(自己株式は除く)	発行総額	ROE(%)	市価(円)
2016年12月	2,272万株	16,549,020株	42.96%	7,287円
EPS(円)	42.00円	17.7%	103.35円	18.8%

項目	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	EPS(円)	配当
2010年12月(期)	11,995	1,705	1,761	981	50.30	30.00
2011年12月(期)	18,022	1,677	1,800	1,022	42.40	30.00
2012年12月(期)	20,699	1,398	1,480	825	40.68	30.00
2013年12月(期)	23,582	2,108	2,028	1,620	72.96	30.00
2014年12月(期)	25,678	2,558	2,643	1,977	114.68	30.00
2015年12月(期)	27,783	3,181	3,222	2,681	123.94	45.00
2016年12月(期)	32,000	3,300	2,990	1,700	106.76	45.00

オプテックスの2016年12月期第3四半期決算概要などについて報告致します。

目次

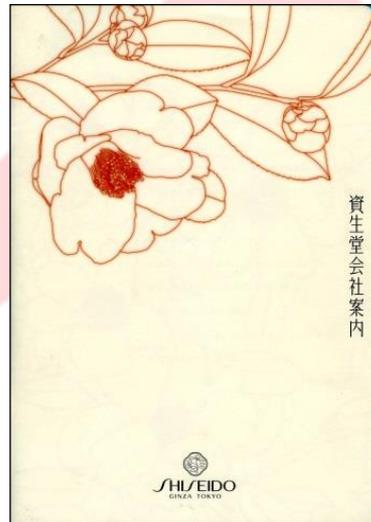
1. 会社概要
2. 2016年12月期第3四半期決算概要
3. 2016年12月期業績予想
4. 今後の見通し
5. 参考: 今後の事業戦略(前稿レポートより)
6. 参考: コアコンピタンスについて

ブリッジレポート  
(投資家向け企業紹介レポート)

## 2. 永年にわたり企業コミュニケーションの 現場を踏んでいる——対応力



日立製作所 100年史(和・英・中)  
(日本編集制作大賞 企業出版部門賞)



資生堂 会社案内(和・英)  
(日本産業広告総合展 経済産業大臣賞)



セイコーホールディングス  
コーポレートレポート(和・英)



# 4. 読売新聞とのタイアップによるIRセミナーを開催 個人投資家へのアプローチが容易——伝達力



読売ブリッジサロン

個人投資家向けIRセミナー

HOME > IRセミナー一覧 > 読売ブリッジサロン

**読売** Yomiuri Bridge Salon  
ブリッジサロン

主催：読売新聞東京本社広報部 / インベストメントブリッジ  
2017年2月18日～4月15日（全9回）  
東京大手町 KDDIホール  
入場料：無料

MAP

**企業トップが経営戦略を直接語る!!**

入場無料 | 土曜日開催 | 株式投資に役立つ

セミナー終了後、参加企業に関するアンケートにご回答頂いた方には  
もれなくプレゼント **クオカード（500円分）**

読売ブリッジサロンで応援すべき企業を発掘しよう!

明るく豊かな未来は、投資家と企業が共に手を握り合って作り出すものだとも私達は考えます。  
当日は社外スタッフによる株式会社専門ポイントコメントに続き、各企業の経営者、担当者が経営ビジョンや今後の成長戦略などを説明します。質疑、応答すべき企業を発掘してください。

また、当社では目標の銘柄のご登録に際するとともに、応援投資の輪を広げるべく「ブリッジサロン・ポイント制度」を実施しています。こちらも是非ご参加ください。  
※詳細は運用規定をご覧ください。

参加お申し込み

スケジュール

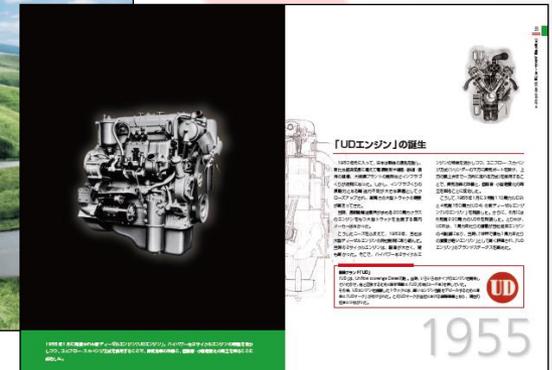
第1回 2月18日（土） [詳細](#)

【おかげさまで終了いたしました】

<p>(0912) 東証2部 株式会社エリアクエスト</p> <p>サロン講師</p> <p>代表取締役社長 廣原 龍人氏</p> <p>テナント募集に強い不動産管理会社として、1都3県の駅前商業地に事業展開。ビル管理・新築事業、サブリース事業を軸に不動産賃貸業にも進出。 ※詳細は運用規定をご覧ください。</p>	<p>(7476) 東証1部 アズワン株式会社</p> <p>サロン講師</p> <p>常務取締役コーポレート本部長 小野 元孝氏</p> <p>カタログと販売店を活用して科学機器や医療・看護用品等を販売している専売。営業利益率10%超、配当性50%方針の専任営業を誇り、カタログのみならずweb販売にも注力しております。</p>	<p>(3747) 東証2部 株式会社インタートレード</p> <p>サロン講師</p> <p>代表取締役社長 花岡 孝博氏</p> <p>証券ディーリング等の金融システムを中心に、経営管理ソリューションシステムやヘルスケア事業を展開。事業領域の拡大と研究開発の推進により、事業成長の成長を目指す。</p>
---	---	---



# 6. 数々のコミュニケーション・ツールで受賞した高い クリエイティブ力を持つ——企画力



UDトラックス Going the Extra Mile—UD Trucks Stories  
(日本編集制作大賞 グランプリ)

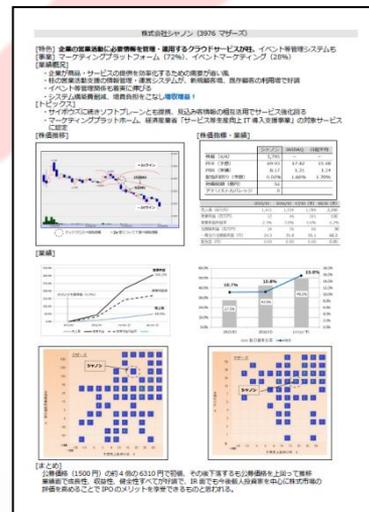
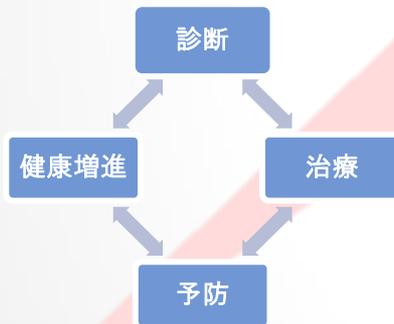
三菱商事 統合報告書2016  
(日経アンニアルレポートアワード 準グランプリ)



# 7. IR/PRに不可欠な分析手法を独自に開発している —分析力

## IR Doctor<sup>®</sup>

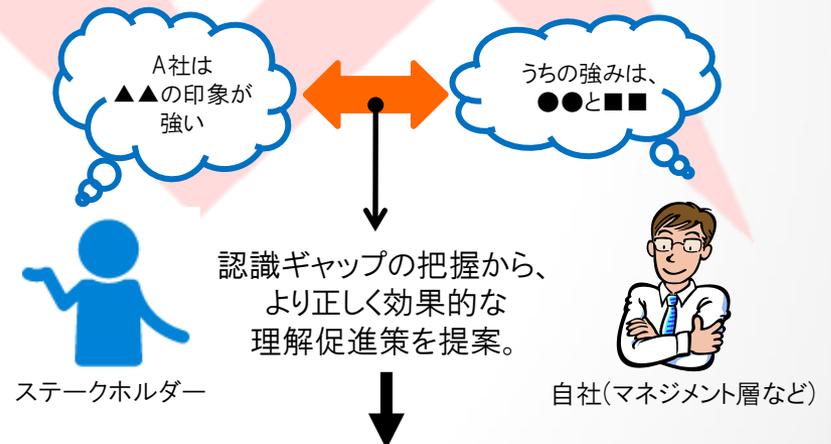
あなたの会社の主治医が、株主価値の向上を目指してトータルなIRサービスを提供。



企業問診レポート

## Stakeholder PGI

**PGI**: Perception Gap Indicator (認識ギャップ指標)



- 企業(ブランド)評価
  - 事業(ブランド)評価
  - 商品・サービス(ブランド)評価
- などの認識ギャップを把握!

# 8. 一橋大学大学院などと連携し、最上の知見を共有できる—情報力

Integrated reporting

シリーズ 統合報告の視点 ③

## 企業と投資家に与える統合報告の2つの効果

野間 准教授 (Norio Miharashi)

一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 准教授

「統合報告と投資家クワイアーズ」  
という論文では、統合報告を行う企業には長期の機関投資家が投資を行う一方、短期的投資家は投資しない傾向があることを報告されている。

こうした傾向は、①成長性の高い企業やファミリービジネスではない企業、②ギャンブルやたばこ、アルコール、銃器、原子力、悪徳ビジネスに属する情報、使用した水量やエネルギー、廃棄物処理の従業員研修など、持続可能な経営に関する情報をアナウンスメントで開示しているが、こうした企業は株主は、ライバルのエンタプライズと比較して株式の売買回転率が低いことである。実務家もこうした論議に賛成していたものの、これを支持する実証的証拠は得られていなかった。

「フォーワード・ステップ・アワード・コールド・ファイナンス」に掲載されたハーバード・ビジネス・スクールのジョージ・セワフェーム教授による

■統合報告の経済的効果-長期投資家の選別

- 統合報告を行っている企業は、長期志向の投資家が株主となり、短期的投資家は株主になっていない。
- こうした傾向は、①成長性の高い企業や、②ファミリービジネスではない企業、③ギャンブルやたばこ、アルコール、銃器、原子力、悪徳ビジネスに属する情報で開示している企業で顕著である。
- 財務資本、製造業、人的資本、自然資本、知的資本、社会資本など、さまざまな資本についての情報を開示している企業や、IIRC (国際統合報告協議会) のフレームワークで示されたガイドラインに沿っている企業では、より長期志向の投資家が株主となっている証跡を見ることができる。一方の選別は、実際に統合報告を公表する企業の株主が長期志向の投資家であることが示されている。

こうした効果は海外機関や投資家の選別の効果も、企業の中期長期ビジョンや戦略に対する理解が必ずしも直ぐに投資家にも影響がある。統合報告は「中期期の成長性」を示すという経済的効果だけでなく、企業の全体認識にも有用である。

Integration Summit主催 / 大日本印刷協賛

## 第1回 統合報告セミナー

「統合報告」は企業レポーティングのスタンダードとなるか

2016年12月7日

プロロケタ

13:30-13:40	企業情報向上とステークホルダー-統合報告の観点から
13:40-14:10	野間 准教授
14:10-14:40	機関投資家が統合報告に期待する
14:40-14:50	野間 准教授
14:50-15:30	統合報告の制作事例紹介
15:30-15:50	野間 准教授
15:50-17:00	統合報告制作推進者とのパネルディスカッション
17:00-17:30	「統合」の観点からみた企業と社会
17:30-17:45	野間 准教授
17:45	終了

第1回 統合報告セミナー

## 「統合報告」は企業レポーティングのスタンダードとなるか

講師のご紹介

野間 准教授 (Norio Miharashi)

一橋大学大学院 国際企業戦略研究科 准教授

「統合報告と投資家クワイアーズ」  
という論文では、統合報告を行う企業には長期の機関投資家が投資を行う一方、短期的投資家は投資しない傾向があることを報告されている。

こうした傾向は、①成長性の高い企業や、②ファミリービジネスではない企業、③ギャンブルやたばこ、アルコール、銃器、原子力、悪徳ビジネスに属する情報で開示している企業で顕著である。

財務資本、製造業、人的資本、自然資本、知的資本、社会資本など、さまざまな資本についての情報を開示している企業や、IIRC (国際統合報告協議会) のフレームワークで示されたガイドラインに沿っている企業では、より長期志向の投資家が株主となっている証跡を見ることができる。一方の選別は、実際に統合報告を公表する企業の株主が長期志向の投資家であることが示されている。

こうした効果は海外機関や投資家の選別の効果も、企業の中期長期ビジョンや戦略に対する理解が必ずしも直ぐに投資家にも影響がある。統合報告は「中期期の成長性」を示すという経済的効果だけでなく、企業の全体認識にも有用である。

江良 朝明氏 (Asahi Maki)

プロロケタ株式会社 代表取締役

「統合報告制作推進者とのパネルディスカッション」

デビッド・ワッセル氏 (David Wassel)

プロロケタ株式会社 代表取締役

「統合」の観点からみた企業と社会

坂根 香里氏 (Kaori Sakane)

プロロケタ株式会社 代表取締役

「統合報告制作推進者とのパネルディスカッション」

祐 麻衣子氏 (Maki Yū)

プロロケタ株式会社 代表取締役

「統合報告制作推進者とのパネルディスカッション」

坂本 晋氏 (Shin Sakamoto)

プロロケタ株式会社 代表取締役

「統合報告制作推進者とのパネルディスカッション」

野間准教授(一橋大学大学院 国際企業戦略研究科)のJ-Money寄稿記事

野間准教授らが基調講演を行った第1回統合報告セミナー(2016年12月開催)のプログラム

Conference

統合報告セミナー

## 「統合報告」は企業レポートのスタンダードとなるか

企業収益などの財務情報と、ESG（環境・社会・ガバナンス）や経営指標といった非財務情報を統合し、発信する「統合報告」という新しい企業広報の形が広がっている。「J-MONEY」を発行人のエドワード・ラッセル（投資家向け広報）などを支援するエンピー・アイ・コミュニケーションズを中心に開催された統合報告書の制作体制であるIntegration Summitでは2016年12月7日、投資家と企業の問題を究めるとして期待される統合報告にフォーカスしたセミナー「統合報告は企業レポートのスタンダードとなるか」を開催し、当日の講演やパネルディスカッションの模様を紹介する。

### 講演 1 企業価値向上とステークホルダーとの対話 ～統合報告の観点から～

#### 財務情報と非財務情報の統合で 投資家の長期志向を醸成



エドワード・ラッセル  
エンピー・アイ・コミュニケーションズ 代表取締役

#### 中長期投資の魅力強い 日本の株式市場

かつての企業IRは、財務的価値提供が主だった。「そのため企業の包括的理解にはつながらず、投資家の知見を向上させる要因もなかった」と一橋大学名誉 国際企業戦略研究科 専任教授のラッセルは言う。2011年12月に、こうした資本主義の短所志向を維持可能なものに変わっていくべきだと提唱したが、元米副大統領のアール・ゴア氏だ。その解決

のメソッドが起きている」とラッセル氏は分析する。

#### 従業員を教育して ビジョンや全体戦略の意識共有

では、投資家を長期志向に変えるにはどうしたらいいのか。ラッセル氏は「日本を教育するのが重要。財務情報と非財務情報をつなごうとした統合報告という形で、中長期的な価値の発信によって投資家と企業の接点が増え、長期志向が醸成される」と指摘する。

25年間の株主数の累積リターンを比べると、東スタダは約5倍、前年、ドフグDAXは約5.4倍に成長したものの、日本の日経平均株価は約1.1倍（前年）に留まっている。

「結果、日本では投資家の短期志向が顕著な一方で、企業側は「中長期的な知見を向上させる投資ができる」という投資家の知見を向上させる要因もなかった」とラッセル氏は指摘する。一方、投資家は「企業側の投資に関する非財務情報や戦略について十分な知見を向上させる要因もなかった」と指摘する。対話と投資の良

J-MONEY Winter 2017 43

Conference

統合報告セミナー

### 講演 2 機関投資家が統合報告に期待すること

#### 優位性の源泉と持続可能性に注目 リスクや課題点の開示も必要



フランク・ロック・ジェロ  
フランク・ロック・ジェロ・アドバイザー  
フランク・ロック・ジェロ・アドバイザー  
フランク・ロック・ジェロ

#### 中長期の経営戦略を重視 ESGと財務情報は両立重要

フランク・ロックは両立重要について「中長期の視点で投資家。フランク・ロック・ジェロの社長は「企

業の独自の非財務情報

### パネルディスカッション 統合報告書制作担当者とのパネルディスカッション

#### 企業の中での「暗黙知」を 統合報告という枠組みで形式化する

「暗黙知」といって、

「暗黙知」といって、

「暗黙知」といって、

「暗黙知」といって、

「暗黙知」といって、

「暗黙知」といって、

「暗黙知」といって、

「暗黙知」といって、

「暗黙知」といって、

44 J-MONEY Winter 2017



パネリスト 総合報告書制作担当者  
総合報告書制作担当者  
総合報告書制作担当者  
総合報告書制作担当者

「統合報告は投資家にとって重要な情報提供手段である」とも言う。そのほか双方向的なコミュニケーションに繋がらず、リアルな価値の共有性、そのためのソリューションの活用も不可欠であり、IRの担当者との連携も重要で、使いこなせていくべきだ。

### 講演 3 「統合」の観点からみた企業コミュニケーション

#### 双方向的コミュニケーションを通じて 企業の実像を投資家と共有する



エドワード・ラッセル  
エンピー・アイ・コミュニケーションズ 代表取締役

#### 統合報告に関わっているのは 企業価値が伝わるかどうか

国内企業の経営者に対して、コーポレート・コミュニケーションのコミュニケーションが行っている統合報告コミュニケーションズ代表取締役のラッセルは、

「統合報告は投資家にとって重要な情報提供手段である」とも言う。そのほか双方向的なコミュニケーションに繋がらず、リアルな価値の共有性、そのためのソリューションの活用も不可欠であり、IRの担当者との連携も重要で、使いこなせていくべきだ。

「統合報告は投資家にとって重要な情報提供手段である」とも言う。そのほか双方向的なコミュニケーションに繋がらず、リアルな価値の共有性、そのためのソリューションの活用も不可欠であり、IRの担当者との連携も重要で、使いこなせていくべきだ。

「統合報告は投資家にとって重要な情報提供手段である」とも言う。そのほか双方向的なコミュニケーションに繋がらず、リアルな価値の共有性、そのためのソリューションの活用も不可欠であり、IRの担当者との連携も重要で、使いこなせていくべきだ。

「統合報告は投資家にとって重要な情報提供手段である」とも言う。そのほか双方向的なコミュニケーションに繋がらず、リアルな価値の共有性、そのためのソリューションの活用も不可欠であり、IRの担当者との連携も重要で、使いこなせていくべきだ。

J-MONEY Winter 2017 45

## 第1回統合報告セミナーの内容を紹介したJ-Moneyの記事

これら**8**つの“**力**”を統合すると、  
企画段階から、ターゲット・オーディエンス(きちんとセグメン  
トされたステークホルダー)へのリーチ、マルチメディアを  
駆使した単発に終わらない情報発信まで、必要な施策を  
“**ワン・ストップ**”で提供することができます。

これが他の制作会社には真似できない

**Integration Summit**の“**総合力**”なのです。